

盛岡城・小・嘸

第3話

#家紋と市章の秘密

盛岡市の「市章」って、すぐに思い浮かびますか？

市役所の建物にあるこのマークです。

この市章は、盛岡藩を統治していた南部氏が用いた家紋がベースになっていると言われています。



南部氏で使われていた家紋で最も有名なものは「双鶴文(そうかくもん)」です。この紋は、盛岡城の建物の意匠や藩主の装束・太刀などあらゆる場所で活用されており、盛岡城跡公園では、今もその名残に出会うことができます。

先日も公園内で、盛岡城内の建物の屋根に用いられていた双鶴文の軒丸瓦が見つかりました。



※現物写真

この双鶴文を定紋とする前、南部家では「武田菱(割菱)」を定紋としていました。これは南部氏が、武田信玄と同じ甲斐源氏の一族であることに由来します。そして、幕府の土木工事の御手伝に赴いた際に、他藩との区別のため、家中に着用させる衣服の紋に、武田菱を変化させた「違菱(たがひびし)」を用いたといわれます。この違菱は、藩政時代から伝わる陣笠や武庫刀などにも使われており、今年の調査では、違菱をあしらった半てんが確認されました。この形、盛岡市の市章に似ていると思いませんか？

拡大っ！

ちなみに、この市章や違菱のような形は、市内のマンホールや小中学校の校章など、様々な場所に潜んでいます。意識しながら市内を歩いてみると、ふとした場所で発見できるかもしれません。



※現物写真

南部氏が用いた家紋はほかにも「花菱」「九曜」「松笠」等があり、実はこの紙面の中にも、南部家の家紋がいくつか隠れています。ぜひ探してみてください！

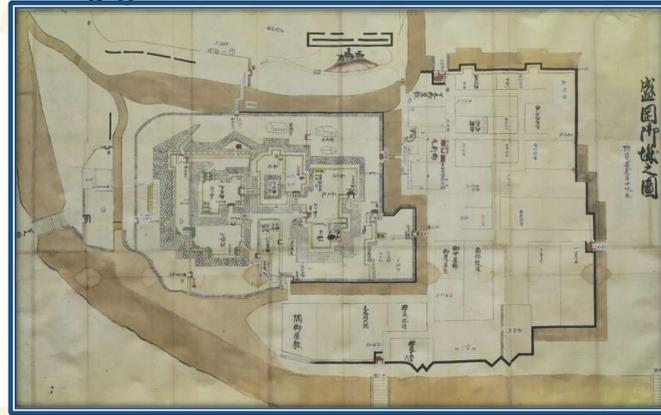
盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。

盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。



パネル展の詳細はこちら！

盛岡城の城図や城下図は多く残されていますが、この絵図で用いられている名称は、江戸時代後期や幕末のものとは一致する点が多く、題目の脇には、「付箋貼付で「付箋慶応年中現在」と記載されていることから、幕末の盛岡城の様子が一部表現されていると考えられます。本丸には、天守・二階櫓等が描かれており、門・櫓・土塀などが彩色されているのも特徴です。



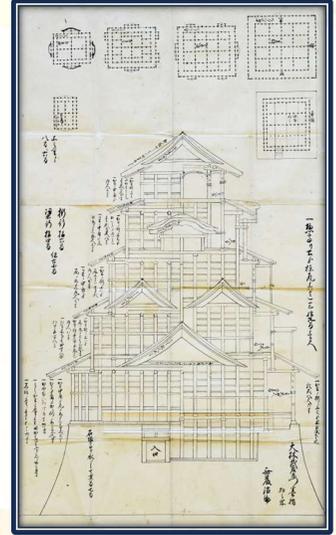
盛岡城復元調査推進室では、もりおか歴史文化館を会場に、盛岡城跡への歴史的建造物復元に向けた調査の取組状況や、発見された貴重な史料等の一部について紹介するパネル展を、令和4年度から開催しています。現在、今年度のパネル展「盛岡城 そのたたずまいを探る・武」を開催中です。今回はその展示資料の一部をご覧ください！



盛岡御城之図

個人所蔵の資料で、「盛岡御城之図」と題された絵図です。盛岡城の外曲輪及び内曲輪が描かれており、建物の配置やその名称などが読み取れます。

盛岡藩関係建物絵図



ある調査では、江戸時代中頃〜明治期までに作成された二百点を超える図面が確認されました。この図は、その中の一つの「江戸城天守建地割図」です。ほかにも、



↑このような欄間の図絵や彫刻の詳細図などが多数残されています。これらは盛岡藩お抱え大工棟梁の末裔に伝わるもので、当時の建築や建物意匠の様相・技術などを知ることができ、重要な史料です。

